

## 団体の概要 (NGO/NPO)

団体名 慶應湘南藤沢委員会レスポアプログラム  
(特定非営利活動法人アイセック・ジャパン)

|             |  |     |        |
|-------------|--|-----|--------|
| 所在地         | 〒252-8520<br>神奈川県藤沢市遠藤 5322 慶應義塾大学 k507<br>TEL:090 - 6144 - 4540 FAX:<br>E-mail: t02527ss@sfc.keio.ac.jp   |     |        |
| ホームページ      | <a href="http://lespoir.aiesec-sfc.org/">http://lespoir.aiesec-sfc.org/</a>  |     |        |
| 設立年月        | 1998年 4月 *認証年月日(法人団体のみ) 年 月 日  |     |        |
| 代表者         | 伊藤 広高・関川 玲   | 担当者 | 鈴木 紫穂里 |
| 組織          | スタッフ 27名(内専従 0名) 学生組織のため<br>個人会員 名 法人会員 名 その他会員(賛助会員等) 名   |     |        |
| 設立の経緯       | <p>アイセック(AIESEC)は、経済・商学・国際性に興味のある学生からなる非政治・非宗教の国際学生NPO(非営利組織)である。現在では世界80以上の国と地域にまたがり、700大学以上に委員会を持ち約50,000人の学生が活動を行う世界最大規模の学生組織となっている。アイセックは1948年の設立以来、一貫して「ITEP(International Traineeship Exchange Programme: 海外研修生交換事業)」を行い「実務研修(インターンシップ)」そして「国際理解」の経験を通じ、国際社会を担う若者を育成している。アイセック・ジャパンは1962年に設立後、国内に委員会を増やしながらか成長し、現在では国内に24委員会、そして500人以上のメンバーが活動している。</p> <p>そんな中、アイセック慶應湘南藤沢委員会は1998年にできたまだ新しい委員会であり、学際キャンパスであるSFCの特色と理念を活かすために、21世紀の世界を担う上で欠かせないテーマ(環境問題、情報技術、中国)にフォーカスしそれぞれのテーマ毎に個別のチームを作り、海外研修生交換事業を行っている。レスポアプログラムはその中で、環境問題に関係するインターンシップを専門に仲介しているプログラムとなっている。</p> |     |        |
| 団体の目的       | <p>L'espoir(レスポア=フランス語で希望の意)プログラムでは、海外の開発・環境問題に取り組む企業・NGOで研修を行い、研修後に互いの経験を共有することにより、多面的な視野から「持続可能な社会」のあり方を考え、これからの国際社会で行動できる人材の育成をめざしている。</p> <p>具体的には、研修生交換事業を通して、「"持続可能な社会"実現のために人と人を結び、ともに学びあえる場を創出する」という言葉をミッションとして掲げて活動している。つまりインターンシップ仲介業務によって、出会うはずのなかった国外の学生と企業を引き合わせ、環境・開発分野の企業の視野拡大と次世代のグローバルリーダーとなる学生を育成することで、専門家が育ちにくく、また活動範囲の狭い環境分野においての人材発掘と、その機会提供を行い、よりよい「循環型社会」の形成を目指している。</p>  |     |        |
| 団体の活動プロフィール | 1998年4月レスポアプログラム開始。インドネシア・ドイツ・リトアニアなどから研修生を日本へ受け入れ、日本からはインド・インドネシア・ペルーなどに送り出している。研修生サポートの一環として、環境や日本文化に関するイベントなども行っている。  |     |        |

活動事業費(平成14年度)716,834円  
(ただしアイセック慶應湘南藤沢委員会全体分)

## 政策のテーマ

環境分野における海外研修生交換事業という機会を利用した  
教育とネットワーク構築の場の提供

## 政策の分野

- ・ 環境パートナーシップ

団体名：慶應湘南藤沢委員会レスポアプログラム  
(特定非営利活動法人アイセック・ジャパン)  
担当者名：鈴木紫穂里

## 政策の手段

- ・ 環境教育・学習の推進
- ・ 組織・活動
- ・ 人材育成・交流、
- ・ 情報管理・情報の開示と提供
- ・ 国際環境協力

## 政策の目的

地球環境問題は言わずもがな国際的・そして学際的な交流なしには解決し得ない問題である。

海外インターンシップの交換事業という機会をとおして、環境分野における最先端をゆく企業、NGO、そして学生をネットワークし、互いの情報交換とよりよい社会実現のための戦略を生み出す。さらに次世代を担う学生を、インターンシップ(企業・NGOでの実務研修)をとおして育成することにより、将来様々な方面で活躍しうるグローバルリーダーを育成する。

## 背景および現状の問題点

日本は技術を持っている。環境問題に対するノウハウもある。ただ意識がまだまだ低い。日本企業の環境意識、そして日本のNGOにおける立場の弱さなど、社会が変わることがなければ日本における環境問題へのモチベーションは変わらないだろう。日本は環境先進国になりうる力を持っているのに、その環境意識の低さによって、世界に認められない部分がある。

また現在この分野で精力的に活動している団体・企業も多くあるが、海外に対して視野を広く持っているところはそう多くない。環境問題の特性は、国際的な問題であるところであるにも関わらず、である。

そういった背景、問題点をもとに、「海外インターンシップ」をもとにした国際的・そして産学連携に基づく学際的なネットワークと、学生の育成を提案する。

## 政策の概要

## &lt;レスポアプログラム受け入れ局&gt;

日本の企業・団体へ、海外の学生をインターンシップというかたちで受け入れる。

日本の企業・団体は、あまり触れる機会のない海外の視点を得ることができ、またインターンシップの機会をとおして、当団体の80カ国のネットワーク、さらに研修に関わる国内の他の団体などから、適切な情報と人脈を得ることができる。また一方で、来日した学生は日本の技術とノウハウを自国へ持ち帰り、その知識と経験を自国のために役立てることができる。

さらに、当団体では来日した研修生を巻き込んで、様々な学生イベントを行っている。これによって新しい人たちの出会いと学びの場を創出している。

## &lt;レスポアプログラム送り出し局&gt;

海外の企業・団体へ、日本の学生をインターンシップというかたちで送り出している。

日本にいたるだけでは実感できない、海外の環境対策(それが環境における先進国でも後進国でも)を、実務によって経験し、学ぶことができる。帰国した研修生は当団体内、また外部へその成果を発信する義務を持っており、当団体はその場を提供している。日本には環境分野における専門家が育ちにくいといわれているが、それを解決すべく、学生の育成の機会提供を行っている。

## 政策の実施方法と全体の仕組み

### <レスポアプログラム受け入れ局>

研修生受け入れを企業・団体に提案すると同時に、アイセックの常に5000人が登録されているデータベース、そしてネットワークを使い、その企業・団体に適した研修生を探す。

両者のニーズのマッチを果たしたら、研修実現に向けた書類（visaなど含めた）関係の処理を当団体で請け負う。

研修実現後は、研修生のサポートと企業・団体とのコミュニケーションを重視する。

来日した研修生を巻き込んだ、イベントなどを企画・実行する。（例：神奈川県藤沢市と共同しておこなったワークショップなど）

研修報告を国内で行い、研修の内容とレスポアの活動、また広く環境問題に関心のある学生・企業・団体などを集め、ネットワーキングする。

### <レスポアプログラム送り出し局>

レスポアの研修に関心を持つ学生を集め、コンサルティングを行い、ニーズにマッチする企業・団体を当団体データベースなどから探す。

この際、環境問題というテーマで講演・ワークショップなどを行って、学生を集め、ネットワーキングの場とすることもある。

両者のニーズのマッチを果たしたら、研修実現に向けた書類（visaなど含めた）関係の処理を当団体で請け負う。

研修実現後は、研修生のサポートと企業・団体とのコミュニケーションを重視する。

帰国した研修生の研修報告会を設定し、広く外部へ発表する。

## 政策の実施主体（提携・協力主体など）

- ・ 受け入れ企業、団体
- ・ 研修希望の学生
- ・ イベントパートナー
- ・ 当プログラムに賛同する賛助企業

## 政策の実施により期待される効果

- ・ 環境分野における新しい、そして継続した国際的・学際的ネットワークの構築
- ・ 日本の学生の経験と知識の蓄積
- ・ 研修に携わった企業・団体をはじめとした、日本の企業・NGOの活性化（海外に触れる、国内の他団体、そして学生に触れることによる）

## その他・特記事項

当プログラムと関係の深いインドネシアでは、アイセックは国家的なサポートとメディアの補助を受けて活動しており、このプログラムはそうして広く国内に知られることで影響力を持ってくるプログラムであるという事例がある。